余はいかにして道民となりしか(1)

深川医師会
深川内科クリニック
野川裕記（のがわひろき）

私は、大阪生まれ、大阪育ちの大阪人である（6年間松山に住んではいたが）。大学も大学院も大阪大学である。そんな私が、今、深川の地に住み着いて診療をしている。「なんで内地からこっちに来たの？」と、あまりにも多くの人が聞くので、私がここに来た経緯をまとめてみようと思う。私の経歴は、researchmapで検索すれば出てくるが、あれは表向きの経歴なので、参考にはなりません。

そもそもは、私の高校の同級生が北海道大学に進学したことに始まる。私を含め周りの連中は「なんで北大にいくんだ？」という反応であった。同級生の出身地が関西から九州に分布していたため、多くは、九州大学、京都大学、大阪大学、東京大学を目指しており、北海道大学に行くと聞いて、「なんで、あんな北の果てに行くんだ？」というのが偽らざる気持ちであった。高校を卒業して数年たち、たしか大学の春休みの時期に急に思い立って、「そういえば、あいつ北大だったっけ？　北海道に行ってみるか？」と思い立ってしまったのが、運命の始まりであった。早速、北大に進学した高校の同級生に連絡をつけ、北海道旅行の始まりとなった。旅程は、大阪駅から昼行特急の「白鳥」に乗り青森駅へ、青森駅で夜行急行「はまなす」に乗り換えるという、鉄ちゃん旅であった。夜行急行「はまなす」のボックスシートで一夜を明かしたあと、ふと目をあけると、目の前には苫小牧周辺の原生林が広がっていた。この景色は私の記憶に強烈に残っている。「北の大地」の魅力に取り憑かれてしまったのだ。なお、細かい日にちは覚えていないが、青函トンネル経由だったので、1989年頃だったのだろう。原生林に雪は積もっておらず、かといって葉っぱもでていないので、３月後半の春休みの時期だったのだろう。旅行の記録を取っていなかったことが悔やまれる。その後、夜行「はまなす」は札幌駅に到着し、私は、晴れて札幌の地に足を下ろすことになった。札幌駅に降り立った私の第一の感想は、「ここ北海道一の駅のはずだよね？　しょぼいんですけど」であった。小さいときから大阪駅周辺を見慣れていた私にとって、駅の周りに大きなビルがないことに愕然としたのであった。当時は南口に大丸はなく、北口からは北海道大学のキャンパスがそのまま見渡せていたような記憶がある。当時は、札幌駅周辺よりも、大通りからススキノ一体のほうが遥かに栄えていた時代であったのだろう。

札幌駅に降りると同級生が駅に迎えにきてくれて、北海道大学の中を案内してくれた。これまた、私にはカルチャーショックであった。公園のような広くてきれいなキャンパス。聞くと、春になると、そこかしこでジンギスカンをするという。「うらやましい」これが私の第一印象であった。そして、進学先を北海道大学にしなかったことを悔やんだ（当時は）。今になってふりかえると、北海道大学に進学してしまうと同窓会などのしがらみがあり、しがらみの中で生きていかざるを得ないこと、そして、内地の大学から「独り身」でやってくるとしがらみのない「自由」を得られる、ことの両面があることがわかったので、「どっちでもいいや」と思い切ることができるようになった。でも、当時はまだ若かったので、進学先を北海道大学にしなかったことに、激しく後悔したのだった。当時の大阪大学医学部は、キャンパス移転の直前で、大阪中之島のビル群の真ん中に埋もれるような格好で、戦前からある石造りの古い校舎のままの「しょぼいキャンパス」であった。そして、附属病院も同様に、移転前で「しょぼい」のであった。若い学生の目には、北海道大学の広くてきれいなキャンパスが眩しく見えたのであった。

その後、同級生は、車でいろいろな所に案内してくれた。札幌から夜通しぶっ飛ばして、夜明けに宗谷岬に行くという無茶もした。(若いからできた話)。今でも、当時案内してくれた同級生には感謝している。私が今、深川の地に住みついて、腰をすえて診療をしているのも彼のおかげである。

こんな経緯で「北の大地」の虜になってしまった私は、旅行を終えたあと、すごすごと大阪に戻ることになったのであった。

その後、しばらくは、「北の大地」のことは、すっかり頭から離れてしまっていた。次は、研修医２年目の夏休みのことである。夏休みをいただけることになって、「夏休みどうしよう」と思った瞬間にすぐに「北海道をレンタカーで回ろう」というアイデアの虜になってしまった。学生時代に同級生と夜通し、石狩街道から日本海オロロンラインをぶっ飛ばしたときの記憶がよみがえってきてしまったのだ。そして、「もう一度、日本海オロロンラインをぶっ飛ばしたい」というアイデアに取り憑かれてしまった。内地の人間にとって、日本海オロロンラインは、このような魔力をもった存在である。この魔力は、YouTubeで「オロロンライン」と検索すれば、理解することができるだろう。

スペースの関係で、今回はここまで。気が向いたら、続きを書きます。